

平成29年11月2日

上越市長 様

高田区地域協議会

会長 西山 要耕

上越地域医療センター病院の改築について（意見書）

上越市地域自治区の設置に関する条例第7条第1項の規定に基づき、このことについて自主的に審議した結果、上越地域医療センター病院は現在地において改築し、引き続き地域住民とともに歩むよう提案します。

記

上越地域医療センター病院は、明治41年、旧陸軍第13師団が高田に駐屯すると同時に衛戍病院として創設され、高田陸軍病院、国立高田病院を経て、平成12年3月に市へ譲渡されてからは市立病院として現在に至っています。

この間、地域の住民は100年以上にわたりこの病院を受け入れ、ともに歩んできました。現在は、地元町内会のお祭りや防災訓練などに病院職員が参加するなど、地域と病院との間に信頼関係ができており、地域で病院を支えることが地域住民の安心につながっています。

現在、上越地域医療センター病院の改築に向けた検討が進んでいることから、病院周辺15町内会から当地域協議会に要望書が出されました。これを受け、当地域協議会では今年9月、その代表者から、病院の改築について意見をお聞きしました。皆さんからは、病院を現在地に建て直すことを強く要望する声が寄せられました。

上越地域医療センター病院は、高齢者でも杖やシルバーカー（歩行補助用の手押し車）で歩いて通えることから、高田区の多くの方が利用しています。入院する家族の見舞いも歩いて通えることなどから、特に高田区に暮らす高齢者は非常に安心感をもって日々の生活を送ることができています。

市の調べでは、病院の地域別患者実績は高田区の患者が最も多く、外来と入院患者の合計人数は平成25年度からの4年間、常に全体の3割を超えています。このことは、高田区の住民がどれほどこの病院を頼りにし、病院が地域住民にどれほど好影響をもたらしているかの現れと言えます。

高田区では、体が不自由な高齢者はこれから増えることが見込まれ、回復期、慢性期の病院機能やリハビリテーション機能をしっかり持つこの病院は、人口が多い高田区でこそ、より一層大きな役割を果たすものと考えます。

以前、病院周辺を保健医療福祉ゾーンと位置付ける計画があり、現在は病院周辺に介護保険施設等が設置されているという現状もあります。

これらのことから上越地域医療センター病院は、現在地において改築することが、高田区の住民生活に寄り添うものと考え、提案するものです。